

県民1人1人のための「高知家の防災マップ」

【課題】 防災用の配布冊子は、県が県内全世帯に配布していた。一方、ハザードマップは、各市町村ごとに対応を行っていた。

- ・紙の地図から読み取らないといけない
- ・地図が細かくて、よくわからない。
- ・身の回りのリスクとして実感しにくい。

という課題が発生していた。



もっと身近に防災情報を見れる・感じれる仕組みが必要！

防災情報をインターネットで県民等にわかりやすく、かつ安定的に情報提供

- ・パソコンやスマートフォンの簡単操作で情報を提供する。
- ・パソコンやスマートフォンを使用していない人に情報提供するための印刷ツールを持たせる。
- ・防災を身近に感じてもらえる学習要素を持たせる。

【対策】高知県防災マップの整備（高知家の防災マップ）
【目的】県民1人1人が身の回りのリスクを主体的に確認する手段を提供することにより、いざという時の行動を共に考えることにより人々の命を守る。

【特徴1】
パソコンやスマートフォンで身の回りのリスクを一発確認

- **周辺の情報をまとめて表示**
 - ・津波浸水深、震度、液状化、津波痕跡などの情報を一括確認
 - ・河川浸水、土砂災害情報も簡単切替確認
 - ・災害適否と道路距離を考慮した最寄りの避難所を提示

【特徴2】
身の回りのリスクを簡単に印刷・共有

- **確認した結果を紙に印刷して保管・共有**
 - ・パソコンで印刷可能
 - ・印刷物は、自由に配布可能であるため、家族内のみでなく、学校等でも活用可能

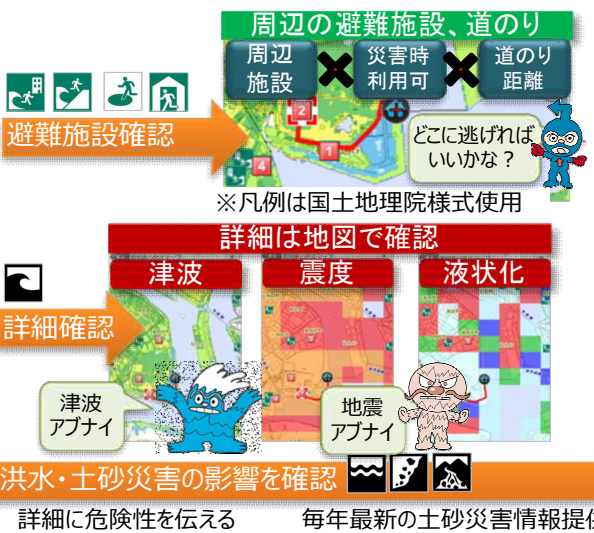
【特徴3】
防災学習コンテンツの整備

- **県民の防災意識を高める**
 - ・必要な防災・災害の知識について解説



【ポイント】

- ➡ **使える** ~老若男女、ITスキルを問わず、いつでも「使える」~
- ➡ **共有する** ~ITを保有していない人にも「共有する」~
- ➡ **分かる** ~防災知識のレベルに関わらず「分かる」~



【結果】台風接近・豪雨、地震発生をきっかけに、パソコンやスマートフォンを経由しての利用が通常10倍以上にのぼり、県民に対する防災周知が一層高まっている。